

JGNII イベント利用報告書

2005/12/12

サイバー関西プロジェクト

イベント名

「ユビキタスネットワークシンポジウム 2005 開催に伴う遠隔 HDTV 伝送デモ」

(イベント-106)

イベント概要

誰もが、いつでも、どこでにいても、ネットワーク、端末、コンテンツ等を自在に意識せずに安心して利用できるユビキタスネットワークの実現に向け、平成15年度から総務省の委託研究「ユビキタスネットワーク技術の研究開発」が進められております。昨年、東京お台場において「ユビキタスネットワークシンポジウム 2004」を開催し、「ユビキタスネットワーク技術の研究開発」についての状況報告を行いました。このたび、関連する委託研究である「電子タグの高度利活用技術に関する研究開発」「ユビキタスセンサーネットワーク技術に関する研究開発」「アジア・ユビキタスプラットフォーム技術に関する研究開発」「ネットワーク・ヒューマン・インターフェースの総合的な研究開発(ネットワークロボット)」と併せて、研究開発の状況報告と、今後の課題等に関する意見交換を行うことを目的にシンポジウムを開催し、併せて成果物を用いたデモンストレーションも実施する予定です。このシンポジウムについて大手町でも視聴できるよう JGNII を利用する予定です。

JGNII 利用の概要

本イベントは、京都国際会館アネックスホールを会場とし、ホールを 2 分割にし、総務省のもとで行われているユビキタスネットワーク技術の研究開発の成果発表会場とそのデモンストレーション会場として利用し開催された。当日行われた各研究団体の成果発表をもとに審査が行われるため、現地で発表を視聴できない審査員のために遠隔で視聴できることが要求された。そこでユビキタスネットワークシンポジウム実行委員長である大阪大学下條教授がご自身もメンバーであるサイバー関西プロジェクトにてこの取り組みの実現を提案され、プロジェクトメンバーで全面協力することとなった。遠隔視聴については、視聴会場として KDDI 大手町ビル 21F の JGNII オペレーション部屋の一部を借用させていただき、機材を持ち込むことによって実現した。シンポジウム用の映像伝送システムは、HD 非圧縮映像伝送装置(I-Visto:NTT 未来ねっと研究所)をメインとし、バックアップとして DVTS(スマートロケーション:株式会社パワープレイ)を使用するという構成をとった。それ以外に審議会用にも DVTS を準備し、京都一大手町において片方向合計約 1.7Gbps の帯域を使用することとなった(双方向利用)。これは AP である京都大

学において 10GigabitEthernet の ER インターフェイスを新たに準備いただいたことにより実現できた。これ以外の取り組みとしては、会場におけるグローバルアドレスでのインターネット利用環境の提供を行い、JGNII ラインを利用して実現にいたった。これはサイバー関西プロジェクトの NOC であるテレパーク堂島第 3 ビルと会場を接続することによりサイバー関西プロジェクトの AS の一部を会場に張り出し、デモンストレーション会場の各研究団体に提供することができた。

イベント参加人数

UNS2005

11 月 28 日: 約 100 名

11 月 29 日: 約 190 名

KJUS2005

11 月 30 日: 約 60 名

実験の評価等

今回使用した映像伝送システムは、これまでのイベントで何度も使用しているものであることや、オペレーションも開発元や販売主幹が常時行っていることもあり非常に安定した状況で大手町への映像配信を行うことができ、関係者から大変深い感謝の言葉をいただいた。また、インターネット環境においても同じであった。

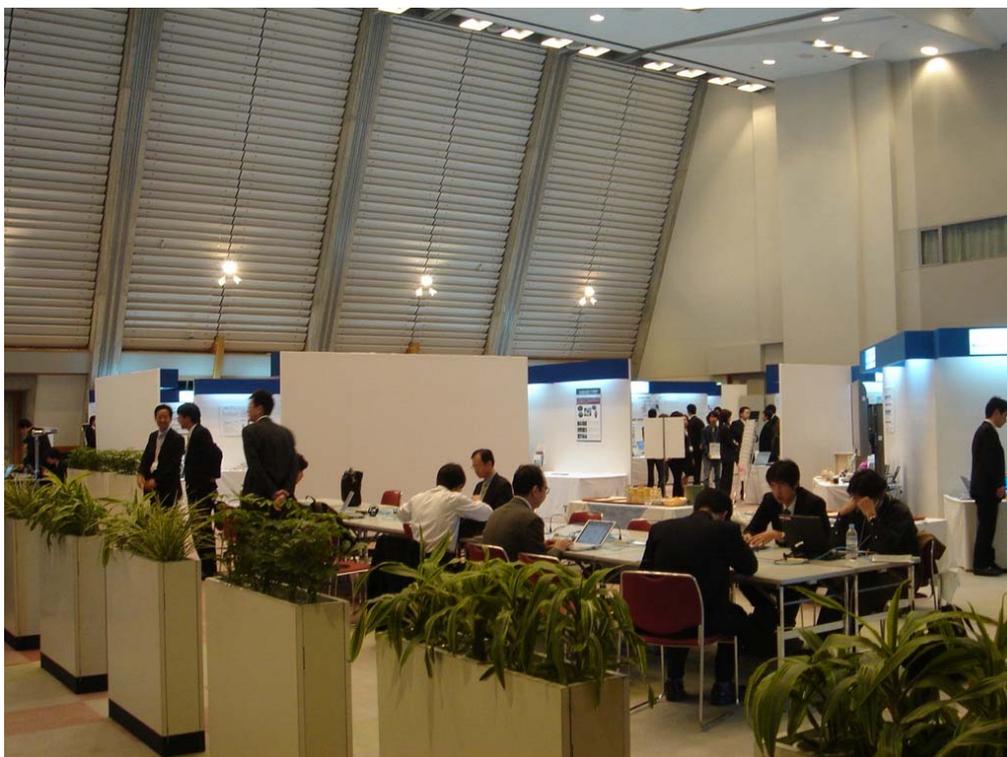
最終日、JGNII 側のトラブルにより数時間京都ー大手町間の通信が途絶えたことがあったが、今回は最終日のイベントは大手町への配信は必須ではなかったことと、片方向配信で京都の会場での影響はなかったことによりイベントにおける被害は最低限であったが、もしこれが双方向デモンストレーションの最中に発生したとすると、イベント全体に与える影響がかなり大きなものとなることが想定されるので、今後はいろいろと対応方法を考えていただきたいと思います。

UNS2005 会場風景

● 発表風景



● デモンストレーション会場



● NOC 風景



● MRTG トラフィック

external -- catalyst6504 Ten2/4

